

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○3日4日～

先週のマーケットも株高・円安の流れが継続し、日経平均は4万円あたりまで値を伸ばしています。NYダウも高値圏を推移しており、ビットコインなど仮想通貨の相場も上昇しています。

最近見たことのないようなリスクオン相場が今年に入ってから続いており、この流れがどこで天井をつけるかもポイントです。

3月はほぼ毎年といっていいほど相場が急落することが多い月です。

昨年も米国の地方銀行破綻のニュースで相場は大きく下げました。

長期的には株高の流れは続く可能性はありますが、日経平均は年初の安値から見ても8000円程度上昇しており、昨年10月の安値から見ると1万円も上昇しています。

さすがにテクニカル的に見ても行き過ぎ状態ですので、今週は流れに変化が出ないか注意しながらトレードしたいです。

為替相場においてもドル／円＝151円あたりからは介入警戒感が高まります。

151.9円の昨年高値を超えてくる動きが出るかどうか慎重に見極めないといけません。

日銀も金融政策正常化を春には進めるという方向で動き出す可能性があり、何かをきっかけに行き過ぎ相場に大きな調整が入るリスクは高まっています。

また、千葉沖で地震が頻発していることも気になります。首都圏に大きな地震が来れば流れは一転するかもしれません。

今週は米国では雇用統計などがあり、雇用統計後も流れが変わることがよくあるため週末まで気を抜けません。また、パウエルFRB議長発言にも注目です。

最近の株高の動きは2000年にかけて米国で起こったIT(ドットコム)バブルに似ており、AIバブルと呼ばれる半導体を中心とした株高の動きがどこまで続くかです。

そして、欧州では金融政策の発表があり、利下げの開始時期がどうなるかに注目が集まっています。

4月の利下げ予想がやや後退し、6月開始予想が増えているため利下げに関する情報もしっかり見しておく必要があります。

欧州が利下げに動けば、ユーロにとっては逆風となり、ユーロ安の動きに注意がいります。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル／円>

先週のドル／円も高値圏での狭い値動きになりました、

2月中旬以降、149－151円のレンジの中を動いています。

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

151円を超えても昨年高値の151.9円あたりが意識されるので、上値は限定的な可能性があり、高値を買っていくのはリスクが高いです。

トレンドが円高に転換するまでは、下がったところを押し目買いの戦略が有効です。

149円台まで下げてくれば買いを狙ってみたいです。

下値は148.8円あたりで下げ止まれば高値圏を維持する可能性が高いですが148円を割り込んだ場合は注意がいります。

148円を割り込むと146円あたりがサポートとして意識されます。

<気になるクロス円>

クロス円も今週は流れが変わるかどうかには注意しながらトレードしたいです。

ユーロは利下げの話が具体的に出てくれば下げてくる可能性があります。昨年高値の164.3円、先週高値の163.7円あたりが抵抗として意識されています。

リーマン・ショック前の高値が169円あたりなので、歴史的な高値圏にあることを意識しながら売買したいです。

ポンドも先週は191円台まで値を伸ばしましたが2015年の高値が196円手前なので、190円超のレートでは注意したいです。

オセアニア通貨(豪ドル、NZドル)は、先週は週足が陰線になっているので、安値更新の動きを警戒したいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では2月東京都都区部消費者物価指数、1月貿易収支などがあります。

米国では2月サービス部門・総合PMI(改定値)、1月製造業新規受注、2月ISM非製造業景況指数、2月ADP雇用統計、1月雇用動態調査(JOLTS)求人件数、パウエル・FRB議長発言、米地区連銀経済報告(ページブック)、前週分新規失業保険申請件数、1月貿易収支、2月雇用統計などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで2月サービス業PMI(改定値)、ドイツで1月製造業新規受注、1月鉱工業生産、ユーロ圏で1月卸売物価指数、1月小売売上高、ECB(欧州中央銀行)政策金利発表、ラガルド・ECB総裁定例会見、10-12月期GDP(確定値)などがあります。

ほかには、オーストラリアで10-12月期GDP、カナダで政策金利の発表などがあります。